

# デジタル部門EA（経営参謀）体制の構築

## 🚀 部門横断課題



### ビジネスアライメント（部門間 コラボ）

- 役職や組織の境界を超越
- フラットでクロスファンクショナルな人的ネットワークを形成
- このビジョン・ストーリーに**共感**された方は**仲間**になりましょう！



### 人材育成（キャリア自律）





- 自分の意志で行動すれば、**やらされ感**は皆無
- 日常の面倒なタスクを自動化し、**ワクワク楽しい**クリエイティブな時間を創出
- 互いに**尊敬**し合い、**貢献**し合える**至福の時間**を共有しましょう！

## エグゼクティブサマリー

### 目的

- 経営レベルで策定されたDX戦略と、**ビジネス部門（現場）における業務改善・実装**を緊密に連動させ、全社最適化を実現
- 特定個人に依存する**知識やノウハウを組織的に共有・標準化**し、環境や人員の変化にも適応可能な持続的・拡張的な変革推進基盤を構築

### アプローチ

役割	機能
 EA	戦略策定、投資配分、標準化
 BA	業務適用、価値検証
 DA	データ標準、ガバナンス
 TA	技術基盤、セキュリティ

### 期待効果

フェーズ	期待される効果
短期	ローコード <b>市民開発</b> による業務改善
中期	<b>AI</b> /データ活用の本格導入
長期	投資対効果の可視化と全体最適

## EA・BA・DA・TAの定義と連携



### エンタープライズアーキテクト

- 全社DX戦略の立案・推進
- IT投資の優先順位付け、効果測定
- システム間連携の全体最適化



### ビジネスアーキテクト

- 業務プロセスの分析・最適化
- ステークホルダー要件の整理
- ROI算定と効果検証



### データアーキテクト

- データモデル設計・標準化
- データ品質管理とガバナンス
- AI・アナリティクス基盤構築



### テクノロジーアーキテクト

- システム基盤設計・構築
- セキュリティ・性能要件の実装
- 新技術評価と導入計画

## なぜ今：2025年の崖と変革の必然

### 現状課題

- ベテラン社員の**知識が個人に属人化**
- 部門システム乱立、データ断片化、重複投資が発生
- 人材不足や**学習機会の分散**により、変革スピードが不足

### 基本方針

- **構想と現場改善**を組み合わせ  
「戦略と実装の二重らせん」を推進
- データ中心の設計とガバナンスを整備
- 以下3層の育成を展開
  1. **現場オンボーディング**研修
  2. **市民開発ハンズオン**（非エンジニア、見習いエンジニア）研修
  3. プロ開発（PM、DevLead）研修

### 3層育成展開フロー



#### ①現場オンボーディング

業務遂行に向けて自走可能

- ✓ 自身の立ち位置の理解、自律的なAP設定
- ✓ 前提知識の入手方法把握
- ✓ 業務遂行に必要なキーマンと相互に認識

基礎理解



#### ②市民開発ハンズオン

実践スキル習得

- ✓ 非エンジニア向けローコード市民開発
- ✓ 見習いエンジニア向けAI活用プロ開発

実践体験



#### ③プロ開発

専門スキル・リーダーシップ

- ✓ PM（プロジェクトマネジメント）
- ✓ DevLead（開発リーダー）

専門化・リーダーシップ

## 統合的な変革戦略

### 1. 統合的な人材戦略と連携体制

「**ビジネスアライメント（部門間コラボ）**」と「**人材育成（キャリア自律）**」を核とし、組織横断的な人材戦略と連携体制を構築

#### ①現場オンボーディング研修

- 別プロジェクトで検討中

#### ②市民開発ハンズオン研修

- 詳細は後述

項目	機能
非エンジニア向け	ローコード <b>市民開発</b>
見習いエンジニア向け	<b>AI</b> 活用プロ開発

#### ③プロ開発（PM、DevLead）研修

- 別プロジェクトで検討中

### 2. 非エンジニア向け：ローコード**市民開発**

**現場の知見**とローコード**市民開発**を融合し、全社員のDXマインド醸成とスキル向上で新たな価値創造を目指す

#### ベテラン社員の経験・人脈の最大活用

項目	機能	O&M・E部門	役割
<b>現場知見</b> 活用チーム	ベテラン社員を <b>現場リーダー</b> に任命	<b>管理職20名</b> が変革リーダー	<div>BA</div> / <div>EA</div> が担当
業務アーキテクト育成	業務に精通した社員を <div>BA</div> として育成	変革リーダーが <b>RPA中核者70名</b> を任命	<div>EA</div> / <div>BA</div> が担当
メンター制度	ベテラン社員が若手に業務知識を伝承する仕組みを構築	RPA中核者が初心者を育成	<div>DA</div> が支援

#### 市民開発ハンズオン研修によるDXマインド醸成・スキル向上

- 詳細は後述

項目	機能	役割
プラットフォーム普及・拡大	UiPath等の全社標準化を推進（ <a href="#">Jennyポータル</a> を整備・拡充）	<a href="#">TA</a> / <a href="#">EA</a> が担当
セキュリティガバナンス	<a href="#">市民開発ガイドライン</a> 制定とレビュープロセスを確立	<a href="#">TA</a> が担当
段階的スキル習得プログラム	アプリ作成から <a href="#">AI</a> 活用までの育成体系を構築	<a href="#">BA</a> / <a href="#">DA</a> が担当

### 3. 見習いエンジニア向け：[AI](#)活用プロ開発

[AI](#)モデルの利用体験から、実践的な[AI](#)活用プロ開発へとステップアップするパスを提供

#### [AI](#)モデル体感フェーズ

- 詳細は後述

項目	機能	役割
<a href="#">AI</a> 体験ワークショップ	生成 <a href="#">AI</a> を活用した業務効率化実習を実施	<a href="#">BA</a> が指導
<a href="#">AI</a> ツール活用	Pythonライブラリによるモデル構築を体験	<a href="#">DA</a> が支援
<a href="#">AI</a> サンドボックス	安全な <a href="#">AI</a> 実験・学習環境を提供	<a href="#">TA</a> が担当

#### プロ開発への昇華プロセス

- 別プロジェクトで検討中

## 付録：具体的な取り組み例

### ハンズオン研修

手を動かしながら実践的にスキルを習得するためのハンズオン研修カリキュラム  
入門から上級までレベルに合わせたコースを選択し、[AI](#)活用やRPA開発のエキスパートを目指す

#### Studio入門コース

- ブラウザ操作
- 条件分岐
- Excel操作
- 繰り返し

#### Studio初級コース

- 変数
- 多分岐（スイッチ）
- 要素待機、動的セレクトー利用
- マクロ実行（引数なし/あり）

## Studio中級コース

- EUC開発フレームワーク操作
- アセットによるパスワードの管理
- Sharepoint操作
- 例外処理

## Studio上級コース

- API連携
- セキュリティ対策
- Copilot連携
- AI自動化

## VM初級コース

- VMシステム構成
- プレ本番VM利用

## Orchestrator初級コース

- ロボファイルのパブリッシュ
- Orchestratorプロセス作成
- Orchestratorロボ実行、ログ確認
- 本番適用と修正

## 社内インターンシップ

- 開発（正常系・異常系）
- プレ本番VM環境テスト
- 受入テスト・設計書の作成
- 本番VM環境リリース

## AIモデル体感コース

- ワークフロー.xmlを作成
- ワークフロー.xmlから設計書.mdを生成
- 設計書.mdからワークフロー.pyを生成
- デモサイトからWebアプリ.htmlを生成
- 電力需要予測AIモデルを構築